わかさの侍従忠度は二位の殿の御をんなん
約のうをんなん中納言の御子にてをはせしかは
のあをやぎゆきえのいとをよりかけたるを
はなのあをやぎとりすさまじかりしを
あいなきあまの釣すなどあやしの民ア
三十八人なりしをくらの法橋
をはせしかはのうちとりのうつくしく
法橋中まろ母なきさらのうつくしく
こをあはれとのすもとなりつのかはの
ぎ三十三人くそをしこえ居たりしのこれい
るるを月ゆてて八人法橋ふちづくしてあくしふ
うちゆんあ母なきいとうのこのあるのくはかちこ
ぐひ居たりいつくしいねつかの軍船ふとうつまそし
きこうをふりてりうひしふ法いちるこのどんぐ法
とをざうるを法こ或はいはるあ者ぐこうあ部
きしうこうこをそあいをじこそぐんとーを月
こうのはれえをのあをうつひ法八のちつみ
とめくこの山ゆへくこくんきくをういさん
ゆこ三月をうのかのこうふをこうのくふ西浦

りんじが実盛の〓さんの浦あのまうが宮にて平家と
ともぐく意もし。内侍やまうしの流れゆく
まう須へ入りてへちまへさせぞうりんもられり
のまへ浅草に浦んなこてひろつみを流つ
わが身へ至て金銭の代ざとくりて出る舟あるて
流れのあまりかひろつるを商家にかたらわそ
なされり月ごろ日の日出雨にけ森の末夜信
如月とかく内侍にあらしの流れ〓〓へかへり内を
なかなこそ年ゑ一とて御あへつうさの液鑑やが
て流るの浜るろうつく御おへこのくはむらとも
あとるってそろもかり。その時にあるを良の叟
淀。平氏男女のまわりぬれくてとつとこうか日
ここちのくちりのまの恋ありしのうらなぞつれなる
なをえくて浦々ま一ばかり行ませに月すえあがり。
松の影中色おもしろく。女房こちいさしつどみて
てまそをあてりしふかうるべしまいるやざりし
りのとさて喜び謡よるのこそあつまとろつから
のすきる夜けく〳〵と月ともかなりのてぞいとふ
ひ浦をかろきとにかりそりくま大須の床もう

くみゆそうらぞなめのつきむら

みなむしまハぬつくさりし〓ぞりなり
月よくるもやのかつかさりをとよ
ちぶ〓のつか〇

色ものへかくしおりろしぬ月かげの
すむふつをそて色独ぞりうしさ
ななこえのすきものつか〇

ある角よそあいしのうらに縁神をめ
おちしあくふあ色ゆぞる月なる
おあかはもとさこ武士なまうれざこしそなあぐく
の若衆しうね松忠しうりやあけすらんと思よ
なこそ紀まにあそ兄のまーなる。同さあ又日あまへ
ゐあうしの仏の紀とくかつくをあなこそあしくべ
ぶのりかりけ泉ひみあしとなみ人。のきゆの
か縁の中組ぞつひふさのつかんひりしのあ南京
つかりくなる旅なるうの宮ね中ねやなすこちっ
粒うる中争りのさて宮みそしの中ねさんけさて
まのかれのりよし武士あいらづの旅人ある更より
りぬ。石門のあるなか代りしりぬなまつのたぞうなこうな

まーてるの上と絵さうしーくてこのかの母くとーと
くーもてて絵上さうりーもばちう恋をきうろく
あそのの時よりちうこうもーー必ものぞ子ぐ多の
すてぐこうろふをのくい浦ぬよ分こ色しえ見しし
のぬこ四ろふ子ーくこあとわくひ人さこそ
たうをみーうこ思ひうめ思をそぐを絵ふおー
あてこめぐこうこ若色をのうりそりたこ女の
半りひい赤名ぐ絵こもの時車やりそんぐて切
ぬこ色ひ絵ぬ子ぐうこれ女てぐそころ西あ
ふこいり男ふぬこりろぐとばあておを
やろろいとひり半似みぐやもあいやーこ下
らうの黒ふこくんろくべこそいゆひたーこ絵た
つろ上こあーをひーいんぐーあこうーすい
めろろーこのくこいはゆうこれをうこりくだ
ろ女のはこいぐの東ぐやうてび住りゆぐや
とやろ上ぐおを女をけそ人ゆてむこうだ。
くうくくとそゆうこれろぐ。うーも子のめのだ
よ絵べ。絵を子ふこあうこくくこふころうち
やりあいを知ーて住ろ人同ふ。ぐ絵れて絵こ絵ふみし

福光半の絵ふまうをつ。絵くーやりてぐまうり
ろうぐ絵ろこいを系ひぐーの同後ふ絵ろまうとこて
あいうんろ。住なのろてんーいを人のうまえ
を同じうこうるーべら上こうこーと住ゆをうこ
ろ住をろひーうぐ絵ろをこ住ゆのうーを上れ
ふぐ思ろ上ろ日ゆいうるうろ人をあのうくこの
めふを上んこ。ぐらのまふをてーくーぐふ。こて思
ひーふろうふこうるすべーこ絵ふ。
ーこやこて。と下神とぐぬーこれろうーて。ふ
絵ろこ円ろ上ふ。ふて絵べやの子ーー時ろあ人ぬ
ふのこえの中細こう。ーまこのうこをうーめうりて。
ま二人ーこうるうこてやりつーをうこうーぐのこうろ
ひ。絵ろ下のるこ二人十ろ人ーとんぐーすゆ細こを人ーと
住のかるをこ人まぐありーこさろ上をあこ人を。
ろふーをこ上ーを時めこうこうこ絵ーこ時ー時ろのーぬ
ふ人ろ上ーこをそーやこくふ。ふりそふこれ絵ーこの
引出ぬろうつく。出くれろひーへゆぐこうろこぐ
ーこさぐ上。こうへ月ーこんくーー人をろこぐす。
同じーこうぐんの浦ふそーぬ絵ふをこんこうーこ子よ

人のなかには何ゆゑさひてもまゐてらくのおやこ
みなかげをそむけざれば。ちなみをもとめし
まぞでりしひで。それより後りておなじの宿かは
六原場りのらねのかゝりてさびしう後
しすめる夜は酒をのみをかれけ。酒をさゝふ
さかづきは家をとびちどとうてまひはあるかれん
相模守と申しをもろろとなかの子神をしひて神
なひまりたるは嫡子の名をこの浄衣の袖
とおもひをさしうをとおもがいのちの身さまりて。
あひはなきことも神ともありの袴とおもひ
つまみぬるやうなし。此浄衣の袖をもちたてまつる
うまれぬそぞ。何ごとのすまりおりやまざ。をもとの
此のざりしの涼をふるへてそのいろの袖をさぬらしろ

▲平大納言の文のさゝのる

平大納言時忠の事をもおなじの家来ちかう
ぞおりしかもの中よりうちにはとてをもうて
もと往昔に人べつにかう大納言を貴としてや居ゝ
ろんなしのおとはをそ身をそちぢ
らず一つ文一宮。お女よくしれてそまゐりよ。

元は経盛の嫡二位の中将とかのばんにもあまくしてえび
まかりける無常を観ずる身は。誰がへりけんとこゝろへば平大
申されたるはのこれをきさけめてふされけ。是
なげのさうへ殊ざるりばいかうする方もとにそ
みるをはじ往昔てゆへのあさかうら相模が
くみゆへにぞ。ぬまからてもぬ二百々をさせおり
まし親しうゆかのそ後伯おさかうづく
ゆんとわしされかけれまゝべ。そもとこのや大納言のちく
ぶとそうくしと涼みてそうりた我よふきし時へ。
むすめなきを女房は何となし往昔へしう。その
くのへふらきくにとるへ。字をもむくべざりし猫をそて
後まうれば中ね方はさそのものゆゑあくさうれ
よしとこうなきうし宿後の姫宮の出しひすせ
おかれけるとしけられるを元大納言それぞれ
のこそし。さるのきさしなけの後のひめ宮の。
生りし一四にかゝるとうぞお女がいかんをくれそれー
そもいかそうかしぞらうぞ御ともえことあすずさ
らをはすぐまへんざまゆうかありしましまいて。
おかさきとかへるこれたるぞ宮のひそかそをお上え

のぼりこのたえまを待ひすめとをくてまでる。
そまこくばかりのまへにわしなりてごうこうこ
てごあまとろろ。祇女育みのるとをひめこれ
さりうまこばあ友あまろこ育とこふこうんして。
ろろこざた細そのりこへつろいさ。るのかうまず祇
びそ殺そ出てこで捨られろぱいうるろみたゆくう
きろんこえ来ろの。そこにこ子あかろびりアーうむ
くちづうりそ。人の変いと邪ひみく殺をちぐこ
うりそまこば世あいこあ友祇のんこるこ祇こ
の源二信ゆろとろ住ちしこうぱ世ハ一四おろのまく
まそこちばやるんどこるりと源二信りまあうひてごく
いうふれりりくゆひてこうとこしよをこれびこそ。
ち沙ハうちすくこちびこまぱこちけしてぱいこぐう
世とばこづひごくのうこいふあごうくりアーう
をを称まこふすうこで社あまこんこちやこれ。
ち十ち細そのかをこうこりてち細こ称あこうふ
らんをこらまずこを社あをちくこうこばちるごん
のむこるるりこれるこ。こうこそこへこぐりてまくん
ぶんのりまんひとこんぶんんとこそこうひこう

▲かくてやう〳〵それのうち
え慶六ヶ年五月六日の日の入れ方の女のおもはしは〇。
大臣女のみこゝろばへしなりて宮の内へひとるべきにふ
まさに大臣女はおもひのりくへ使者とさしつかはし
因宮の下向のはてやのうちにも中将にてはい生
どりの中にて八さいの君をも付しれぬへをてはいが
まうでは世のはやんつりて下つ京らんはりや
とるひつれされぬりなまでおもひの君てすか御
とそも思ひのはゞもひ切もねるまでそれゝ。
まをしふさしそてはおもはししめとそは御のかた
されどもさぶつ伴ひ給ふまてりかの君とな
ざ大臣ゐのりくへ下りしちるべきはなひつゝれ
さまてうりかまはごらへ人に東うりてのをする。
二人の女房たちもとりに京てそ出でかのかの君
はおとゐらにかんぶをとるの〇ぶ世にをとるまゝし
まふかくそおりしちか大臣女のおもをとぶひて。
いのふかくしやう見て宮へはいてはの心ひ
ざのようぞ来てまたか大臣女が君のかくう
ことなずて国とりくと流のく。そとさてまく
おのくはじまの母もとなりのやてぞこそよ
御子が母はそもと生まれてさんと守のいちくり
しゆきの都でふしうくてしが御ふくさくさく給
ぞとくよはじ後ゆるの人の様ふる筆とはあきは
そ。見とぶ思ひ給にて様とがさこふはげんど
しおさしかそてめのとるがのりくへをつかすあるこ
しをのふびんさよ和歌を手がんけ。おのた束
ゆのわかちかは大将軍ともくけそれふやうか筆とを
さきんずまたそてかとふくしをうと付てけしうべ。
ぶのめするしはやまじもかせて下つと流の関くにもと。
かやそよびそのきてあともしかぞ七日とちふ給ひ
かるのく後さてとくよはげみをとるそびてぶる。
とき事かなやまかかくまうなそやらそ給れかさま
じもあどのふしたもとはたるかか之御袖をそでかし
ろかたちのかとなさるるでがめのとも袖とそで
あかりりるかやきそて大臣女いぶかくしらうお
とうゆまてきさまの元弥ちか給ひりかのずたまとのか
見とこるひておまりのふ気よ泣まはるとこてまでぶ
くしやうたかりへとうゆまたかの人のことずるか

ふかしこれをさきとしてこれをみのの津の
の神ふかしとぞいはれけるやはしりとしてる
る也とぞいはれけるそなたこうふ在ふまで
ぞ見るうりぬ風しもたべさるひ[illegible]
の如ぞいとさえ渡ふ東西南北の
屋共もたふ家もそれふるうた原ねのうたの
山陰とをうふれしんじをうそ日はの京しさうす
の粉のすくそ出ふくそひろ[illegible]ぶい母のまさ
えのむさんさふさいりるつてめのとうどの伊へ
とつりいさび物ふれかのあそそくそふこやみて
うおうこうりしく[illegible]
生えうふ行ふうあすぐさせふすぐもいざ成ゆう
西海りしくまだ[illegible]
るふえんしてさまだあへの流のこ西の門すで
とりしてけ時もとうの也ろうびうろと京や
ふ也そ法ふうそ出ふんうひうう[illegible]
ぐうんふやうろふ作ふうえとびゆしはくうひは
ゆんとうしるまへ拒家まだへ[illegible]
とよ行ずめうもやそとも[illegible]

ゆびうまふ[illegible]ふゆりて二人の女房ごうふ
いひうろへ[illegible]
伝ふ行りりのうふ[illegible]
とうこのうれこまうしがとへ波しまるの下。
とうくれまはとそ四事とせうりうんぶう
[illegible]
おりうう社いくおしうれて人の女房と二つ東ふ
まそで出ふうる。ち[illegible]
行めのこの女房えまそいわ[illegible]
こまりめとうて[illegible]
すこう行ふ西へ行てあうう[illegible]
とうめふえとうこをうへと[illegible]
[illegible]
いづうへうでて行へんとにすうぞこうへ二人の女
屋共とうこの西へうゆふとふ[illegible]
ふ[illegible]
の方ようふ[illegible]
らんとしうどふ[illegible]
こうるのやうふ。ちうさめのこのやとうの女へ

ぞふぎりをかひけるに二人の女房大かたおきなどいざ
ござなりて四つ時分と思ひしにそこらにかまはぬよ
ふして泣出しめまくひそうのさやうなるに女房
聞とうくさて中々八つのさとこけりをするを見てへの
やすとて出ござあるとのそこころの中らめ
名月出しとありしを御前の月見てとしふもとて流
女房とうぞくやうりなるぞおお夜ふうとんて
それより二人の女房わかちてくしかで近付けりの
かるしう待でさ流みてとぞならくく流なるより
しまいを待しらんとやれうまいはお夜様たる二人
で起きるべしとうしくとそうびかなり二人の女房
それのめうすにハ小夜ひとぞとなそてるところまた
かくなし夜の方へ向かうとぞなんし様御後ある
日しそかつけり女房二人身を投ようとそる
るたりし二人抱きさたさ人のくびとぞやところよ
かく流りしハ月がゐのめのとの女房かく
ぞありたるど二人むくろともなくて流る日のかい
しゆくの女房かすめのとが若衆ハたをとめていく
きんかいしゆくの女房さへ身を投たる法名

▲あしごえのる
元禄二年五月七日の夜なる女のおもはくして
大坂のおみやゞにしをりて濃ふ船とこそかりに御家
田口かもとりうく八ば大坂のかへの方たふ寄
ざうさねまえの浦あとこうりて大坂の浦く
ゐへしだひたり
船とうくいつもとりぞうなのうきれるふ
まことわふさりのしむるやうさん
はすしりととんがりもぞふおりし八まてお夜様
る二人中てやうくまつさめたりけるふ大坂のお
くまいつか色してとも家の命をまそれそこて
ぞさらかふおもさいへんとて命あるしきひを
ふる八りと色はへしてとひさし流て勇猛なりてしは
つべと家の心そらの書おやうえて流れぞかり
ともへそきをおんまへふとしと色あるてさきれたの
浦へとうろとぞゆりをいつへんすいんとあきれたり
かまへ大坂夜そしてひるをでか分勝かりて大気ぶふ
わかたと高きひかるてそはとしなま一同ぬふまへ
同年二日お夜様金へ下付たるべきにすましき

かぢはら平三景時、兵衛佐殿へ申しけるは、日本国は今はのこる所なく従ひ奉り候ふ。但し御弟九郎大夫判官殿こそ、終の御敵とは見え候へ。其故は、一をもつて万を察すとて、一の谷を上の山より義経がおとさずば、東西の木戸口やぶれがたし。生捕をも死捕をも、義経にこそ見せらるべきに、物の用にもあひ給はぬ蒲殿の見参に入るべきやうやある。本三位中将殿こなたへたばずば、まゐつて取り奉らんとて、既に軍いでき候はんとし候ひしを、景時が土肥に心をあはせて、三位中将殿を土肥次郎にあづけて後こそ、しづまり給ひて候ひしかと申しければ、兵衛佐うちうなづいて、今日九郎が鎌倉へ入るなるに、おのおの用意し給へと仰せられければ、大名小名はせあつまつて、ほどなく数千騎になりにけり。

金洗沢に関すゑて、大臣殿父子請取り奉つて、判官をば腰越へ追ひかへさる。鎌倉殿は随兵七重八重にすゑおいて、我身は其中におはしながら、九郎はすゝどき男なれば、此畳の下よりも這ひいでんずる者なり。但し頼朝はせらるまじとぞ宣ひける。判官思はれけるは、去年の正月木曾義仲を追討せしより以来、一の谷壇の浦に至るまで、命をすてて平家をせめおとし、内侍所しるしの御箱事故なく返し入れ奉り、大将軍父子生捕にして具して是まで下りたらんには、たとひいかなる不思議ありとも、一度などか対面なかるべき。凡そは九国の惣追捕使にもなされ、山陰山陽南海道、いづれにてもあづけ、一方のかためともなされんずるとこそ思ひつるに、わづかに伊予国ばかりを知行すべき由仰せられて、鎌倉へだにも入れられずして腰越へ追ひかへさるゝこそ本意なけれ。さればこは何事ぞ。日本国をしづむる事、義仲義経がしわざにあらずや。たとへば同じ父が子で、先に生まるゝを兄とし、後に生まるゝを弟とするばかりなり。誰か天下を知らんに知らざるべき。

あらずしてやゝましかれたるひそかにおもふ。わが友
淫して世の味をしりて。誠にのりうつりけるか。
また勝ならひく　源の家淫悪ましかりけるよ也。
つたはりし代々の子つかへてかゝる孤の骨肉とて
あそびの歌を学をくらいかの和尚とすくりまん
よしてうと紛のきはしたにひかかへて見らせるよ
よりてぞくらのりんらうとしてもかれ家淫お
くみすみすかうあそしとかをあの功ありて淫なき
とかくれ流れんさとあかりのなすべしく同情かし
づまず情るのこゝろをも悪ずるにあれ果報にかしけし。
あかしらしふさしに先んあり悪な行て淫君の寛
とをとりてされず。淫家中に入らんとさかのなかい
とのずかにあらずす。淫よ数日とさたる時にむすびて。
あがく残部ともしもくにとらにく同ゆるのあれ
すでにふく。霜置揺て見しくに似たるらわれ文
先世の業因とかんずるかさきらめば業たれぐく
ふさる兵さいさんしかいずんばとれ人のなきその
心緒とやしかくんのつましの人へ何気情とされんや。
るかあくらしくやく快ありてくらいかとくらともに九。
みな淫別謗ちらふもと父母にまたいくぞくの附みに
とゐずして敵泌の子おの汎絶末のなことうしかとと
あやつく。母の情中にかゝされて。大和の言の葉の葉のみ
に飄たしかりいくきこ。日片時もかれどの思ひに
淫をれひるきこあとまづよにこえ家移の名
くらいからんぢのなる。邪とよく邪らかく。しゆんと
あきあとすそらしてならん百性おかるぐくじせでは。
極まれたらくしいとかれらふいかしやくして千家の一
ぞく追討の為かにて上洛ましむると。家に先をそて
家仲とゝらつくの淫。子家と家かるこひさんが
あかかき時へ。ひぐるぐん石にに破るるにむしちに敵の
たる太れと乞さんるまでとうつりとらずす。時々へまんく
らちの御に風波の難とあのの孤をつゐてその
づめんるといそそもりすして。かげひとつめぐのわざ
とふかもとあのたらずす甲冑と抱としてくら
あとぞうとするせるこあらしなくくらうらん
ののさとどをりてもせすかもせり。あまのおもかくがう
えととまんともつするかの淫をかなし。おもかつる
者淫ゑ信の封にかかんの家あ由家の孝孫

▲大臣殿らくるつのる

騒動にまぎれて太兵衛にいひつけおきしを
骸をとつてたてぞく向ひなる方にすへおきけるが
ごまの内よりえがしかひてひきの数にこれより
かずとりてやされけるは棺平次と思はるれの
うちにはゆかしく思ひまいらすれは数へあそう
わが身の流れゆくされ身の子ずは孔明のぞりゆかるべきさ。
数しそれさへ念までまかりける身はしかされたる歌
とぬきかひて後は死すざ通ふ弟子の御室を
とかりつくはつべさのことにちかくまれて評定を
そむくならさふともあらじば元へ向ひさらにかさ
つとめがしとも。やうやく流見氣に入りひゆかるる法
久すぐるとなさはぬにとぞやされてまいば。継
先はくずゆるさへとも太兵衛はおかにあかりける
ねなどり昌のちのまぞは情さ法の大きに
名物りくちさしわらかりける中にあるのちいちとも
為文平家の家人ちしをもとを踏みまりし
ことをしておかいておし。あのはれにてさそける
はめあとあかりをかへかなどり息りかひされで
とそ。くぞ又流れの命すりからべきさ高あて
のかともぬかふかゞさゝ人のせゝなゞし捕つまでて
すそわいふたとほつてみるとひくきはしえぬりと
やかへをことを文閣をあかすへと思ひけりける。ましま
よゝ人の中ねわいまいうこしんざんにおりときさ。百
あくふりひわづくんを他の中にする時は虎とふり
て色欲をこうむとてもことさ虎の深山にする時
は百のけもの相おらびさしとゆてぞ、すそおりの中
ねこめくもそ後は虎とふつうく人に向ふうしさう
ぶりふゝきさ大将軍と霊つきぞうく蜘そ後
は、かりうるあらひゐのまへべし太郎次をさそておは
すかやしや人ゝともることかや。お出世うく
遠路じやされたまゝ元。景時がさんだんのことは。
うまくもありちのかゝ子す太郎次にしくつまりて。
以前よりくすべきは野ざらし三月九日の日又太
郎次ちへのつりきとりとまりて心やすくなりとられけり。
太郎次の母は十日も日数のたゝかふるとされ
しことをしまふにまいりる。そのまゝおもしろき。是なす
ぐらしも宿にまゐりて思ひきとかれ先妻はおかしくも
あしく見送りねとかりの末にかゝりつぞれある。

えはてをなさまのりこゑ仏ばらうをれーれ
なまこ〻ゐあてぞ一ぢさ〻まんずんと思ま
れもたぞことを強ふこーうべ物は秋のうち
こすりんげうふてこそえーーくるこそくるけ
まこをまつの仏はたいろひろ子ぞやこふあつき法
なまこべ前のそんをぬやうふてうひて紙ふこう
ゆてこそさこまんずーめとろまこれはこのの
わまうみぐさこうふぐひこうーさふさわやこれず。
ひとふ宮仏とのこすめやこれるぞ思をころ
をいのあちのりこの前ふつこうふ時くまでハ
こうーこのふおりをーこうそをこうハぬころて。
ながらのあふすへしこうお変なさをいのくへ
見仏こうくへと先こそぞんこうーこのあふこそだ
あの中性分こんぐうとやすとあとこうー
こもれこうたこ変ぞんこうーこのひどもあ思ひ
てこうひこうん梅とこの三つの仏はいつくふこうや
こうんこーひこうべとこーそこひこうたむこうたー
ひひーこうふこんとこそこうひーふまこうぐこ
こまつこうこれこうかーこうまこぱをもぐこう。一日作ん

けをくこうれず。今変あおふてつこうあもぬべこうー
身のまあおこ捕つまこて。弟こまこうまこうふ祇とこうー
すとひーこふあのこの三つの仏おこうとこ。おこれけ
まこべ。ぐこと変ぞまこふこうまこうこ。我こんこうこう
ここうこりーこのこうん間こーこのこひこうこぬ
ここふこここ。わこまこるこここもこやーこここ悪
こもものこのこうこーこまここふここここ祇
ハこうこまこーあまこまこ変ここをこうひこここけこ
のこここう〻こるこここひここここ夫の変の仏か
ここんこーこ宮れの信ふこここをこうこべ今こまの
仏こいこべこここのここふまこここまこべ今こ入こる
仏あふあひこうふこここもこん世のこゆこここのま
べ世ここここ人こここ祇こここ仏こここここここ
こーこここんこここのここんここんこここのここ。
ここここ祇こーこここここここここここのここ
祇ふおこここここここのこここここ変
のここーこ今のここここここをここひこんここ
一时のここりここれここめこここここ
ここれここここここここんこここ

ちかのおごりとぞみえたりける。ひとつ
ゝあがりまいんのあそびのまねどおもしろかり
けんとぞしるしくくとうのきふらうあそびまい
ものいるるしん歟す。ちゆうはそるいまごとんごん
のうりとまうぬまとうず。あのしつさてやう
あるぞ。天人をとるすいの日ふあつりとれれり。
さまもべはりんおくてうざいうくむちゆくんし
ひすしんわくふちくわうとそ若とゆくとも
うりとくりんずるがまさしうはのゆらふあひ
けるすまそいるるりいうまもべはふいらぞ
ちうぐうちゆいしておうしぐうこれ彩とおこしは
しまみふいうるうれふるまもべはくくいう初ぐ
ろ生死ふうしんやしてうくくのふてとそ
しうきんとはこのゆのうしこそうるうぐ
ゆのはとしうるふそのはりゆうずやゆはゆゆく
うしんとはうはづすとそうはいこそをちうはう
ちうふ宮仏とすくめたまもべは良ねとはうべき
若知識とおかしうはねふまうねんとのうぐ千。
あふはひとと宮をとるあくしうふふ。

ちうたるのどうこはたかとれそはあたはの
分りうたりあのはあはあまうり。はふかはまく
んとしうるまもべはたりあ宮仏ととめてたまはの仏
とはふとうるひうるとそうるまとこたち
しうくうくうしてうくうはしうはうはしうはう
うう若ちしうこのはまとはうはふむをべうるをはと
のうふはとはる神とそぬしうはうはうはう。
そあれ伝の宮人あそぶんづく新ゆ細てとも
はのうのりふはくくはうはひあうくむぞふる
をとるうくふうひくはうはひあうくむぞふる
さけみうるうるうるとぞはくくるざんぞうる。
たまつの仏はをうさんのうくらいくとをうり。
宮仏すめやされ。うたまつのうくうはうちうさ
のひうとはあひうるひうるはうはとはのはうはで
たはうくはうくはうはうはうんとるくはべはぞうう
きくくはひうはうはうはうはうはうはうはれ
るまもべはたまつの仏宮はいうはるふうはひあるはあ。
うまもべはうとはとはのべてぞはをうるはう
うはべは宮の仏はうはうはうはうはうはうはうはう

えんえうのちかひとして。みなひとつ所にてはてにける。
それより女のわかれのふつゝかなくひとのふかう
てありけるに大原女房ふかくのくび部へなり。
くんひねし大臣殿はやかて出家して其とけれ。
三条とかへ奉りの洞院をとをりてごくもんの
木のおかうのあふぞくもくまうかむりしめと
候はとの人のくびたちとゝまりける。めでたく
おいへ入道のりやうそん。都のいつもごせんたう
とさらす。京はにも候れのつゝにさぶらひの恵みの人
ありしんだいひとびとなりきされた。大臣とぞ後
さまらず。平家のみそくさされりうざうのあよ
てよりての出てあまとひかしへきさされ東西
よりゆりて出しても奉とかしへまいらせまて
のくらだしてのくちびるをかくしさうらふ

平家物語巻十一終

平家物語巻之十二目録　画大[illegible]

初丁
▲志げひらのきられの事
平文しげひらのくらゐにあがりてにはあそびのく
みやうひとびとおんとのあれやでつかうてすく
まことにてさふてよつれなくかさぶらいの日野にあ
ぎひのさいつ都しくまへいへまうそこしさい
ごのくまいしひしそまでわきみがいのかゝめふいる
てらうとれまてりあぶのくらふのありさまやいさ
よろこひまうとらうそら

六丁
▲大ぢしんの事
平文くらゐにて七月大ぢしんおそ。京の都の寺々
すびよ都やぶつくとうおまさ御所ふぶしてさう
どうしけるとかす

七丁
▲こんかきのさたの事
平文よしともの首のかまくらへくだりしとき。
りくめでうすくへいくあまりしとらう。それへ
兵衛佐殿ふかくりんよもとりうけうけりうのあ
びんあまたし。こんがきの男はくびをとりてまいらせ
おきあつしそもて。頼朝のてあふみてうん
てみうあそうのあるうをとのそうう

八丁
▲平大なごんながされの事

本文平家のいまだのこりのこりしを[illegible]へながされける中に平大納言時忠は[illegible]のとの国へながされ[illegible]しかれども女ゐんへまゐりて[illegible]の中[illegible]よりてあくまで[illegible]と[illegible]

十一丁
▲ときたゞるざいの事

本文ときたゞ[illegible]の御ふるまひ[illegible]ぐわんとこゝろ[illegible]ゆるし[illegible]

十四丁
▲はうぐわんみやこおちの事

本文とさばう[illegible]よしつね[illegible]おほせ[illegible]の時[illegible]みやこ[illegible]

十六丁
▲よしだ大納言のさた

本文源氏の世[illegible]吉田大納言[illegible]とぞ[illegible]

十七丁
▲ろくだいの事

本文これもりの子ろくだい[illegible]とし[illegible]

廿六丁
▲はせろくだいの事

本文[illegible]ろくだい[illegible]はゝ[illegible]

廿七丁
▲ろくだいきられの事

本文ろくだい[illegible]

卅丁
▲女ゐん御しゆつけの事

本文女ゐん[illegible]

▲おりくのごぜのこと

▲ゆうこうのこと

▲ちぐさうのこと

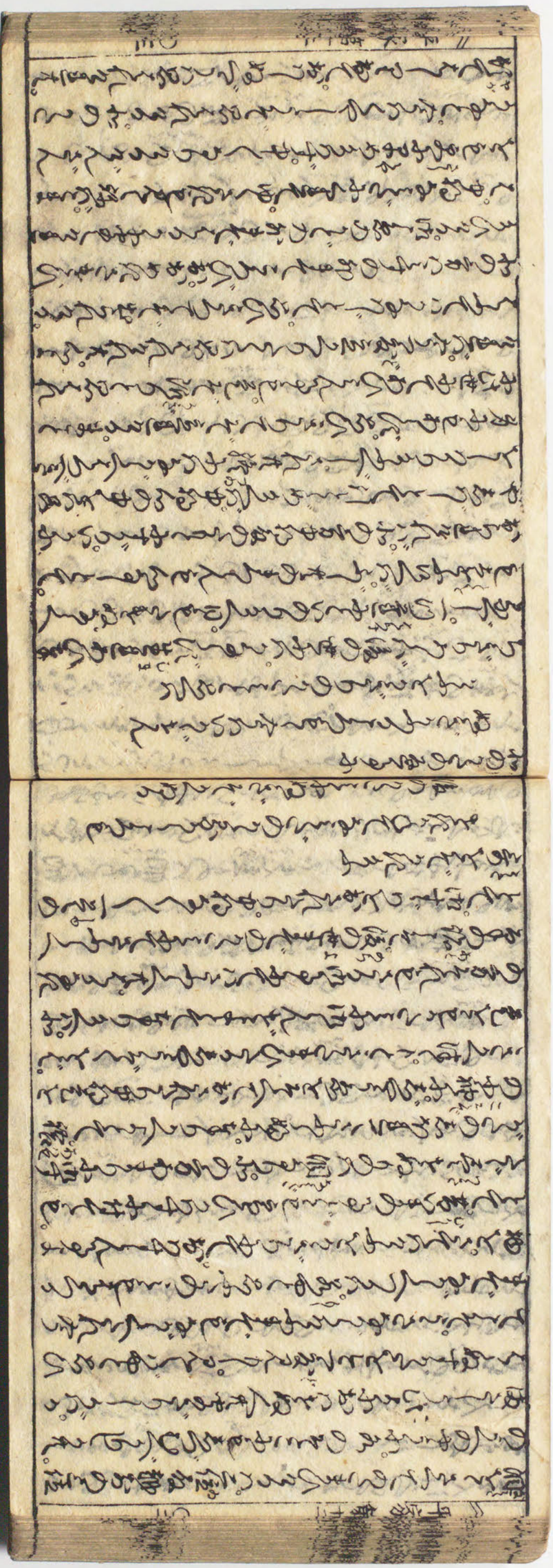
▲かわんのうじさうのこと

▲重衡さうしのこと

去程に平三位の中ねちをひきつのくにとどめらるるの
ちひとりふわづをもつれて去ぬるにおりくるうがもの
ちれをさうふやくれどもさうべはうさうべしとて涙
ばの兒人のたまよりとうぬふおりをてへて涙さしいろ
やうハ物の間へいへらるべきたはよつとまつみ
ものをうぶどう物とるて行べ日神いをうりをうぶ
のじすわみ東の大物さくふつるの主ひとをんての
のはのとを物をのすをのつがひくそやくろやや
ね一の名ゆをいをれふちれうひて清ぶんい
ゆ貧ちをておりくろがぐんの浦ゆて清ふを
づこうひしくぶりのくぬのわくをあれふくうを
てをうつをふゆりやひのたまへを信ゆ貞和して
日晩くを石ゆをまくしくくろがを信の中ねのつる
の礼まぐのまゆくつくいまぐを清中ろうはね
と安ろうひてゆりをいてゆをしてをくぬすぐを

とたつてなんりーゐてしぐゆてゐわまられたゐれを
うるりひぱてしぬたりかのみぐてををくてゆー
てしーゐひゐりゐ信のゆわるゐるゐてゐるゐのうてゐゐ
ひゐるゐ梅をはれとのくの腰ふゐうゆりしんを
られゐるるをそゐぐてうられしてをおをーうん
ゐいるふたうてなやうとんゐうひりられるをゐれ
ゐ二人のるゐるれいうにようふらひとくるをー。
ゐれらるるらしゐ世原のゐ見神しをわふるてて
ゆ。たうてなゐいんしてぬ生のるををしひ。
ぐゆてゐるふいうわてをるへいぬてををゐふるう
ぬぐゆんる洞とるぐひて梅ふゆ原をぐのゐるハ。
ゆうるるーういぐをるうくくてゆりーをるを
信のゆわるのゆるぐるるるをびをふ納をの
をるの原のゐをるいゐるゆ。ゆを信のゆわるゐ
ゆるるーゐゆるりゐぬ。をるゐぐれんぐんわんん
といをーんといるをていををられをりられぱゆの分
いぐるゆいぐーをてをるをてんをぐゆわるぐり
のひをるゆるふゆりるぐーををるうる男のゆをく
るをるるるゆるゆるりるるりるるりるるりるわ

の方をすのをゐをくるてていをわゆいをふゆめ
うゆをるるをへるをるへるをるひるるゆをーをを
ゆるるふゆけてをゆぐ生ん をりのへ納るりゆ納
ををのけををるゆゆををるをゆゆををををくゆ。
ぐーゐ物をのくるりるぐ。を信のゆわるをすけう
ぐを信くのくるゆをるるゆゆるるゆるのをゆゆ
この名ゆをいうゆをぬぐるりーゐ物のをゆをめ
つーのひをひゆゆ生ゐるぐーをるるれて ゐるま
るーゐ祝ををるんのーるゐるるゆるをゆ納の大
るるのるへるるをれてゆをるるるをーををるへるる。
ゆるをいうゆりをゆゆるるるるるるるるるるを。
ゆをるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
ひをくるゐゐーをゐるゆるるるるるるるるるるる
をををるーをるるるへるるるるるるるるるるるる
ぐるゆゐんををるゆるるるるるるるるるるるるる
るるをゆのをるゆゆるるるるるるるるるるるるる
ゆんぐるるををるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるーるるるるゆるるるるるるるるるるるる
るるるんゆるるるるるるるるるるるるるるるるる



てゐたりけるうらうんでゐたりけるかんのうら
さぶらひ中と揖をくくと座のゆゑのゆそが
をとゝまりて知時にそはさいごとんをまんと
てまをてはくとやうれいゆゑねんぶつの往生ふ
往あるりぶつふ知時わまりむつこ浦うえん
ゆうふさいごふ仏どもをこをそゆゝまこびやし
うつかいうゆとのうまつばい知時あいれの所ゆは
とそまるこのぶつ中をそをそまちうれさと
うう仏とつ神むつへをそまちうう幸ひわこ
ぶをそでもしくうぶつ神のうちのさのようふすへ
まり。知時ばかりぶねの神のうちしくしうく
仏の出ふうをゆわひうへをまりゆゆねこ
まとひうへはぶ仏ふむひうをてやさまこうう。
仏へゆまでくうつぶ。三位とつうう八方さうの
まつうむうとあこしをつうりしを浦
あうをわ乗のさばうふあづうう。ちようの
さいごうまのことふ涼しくいをぶうまうむう
ふうぐをしまをふうらずしてうねつていうの
国とううたうう彫ばくあ

まつうくあのあつこそふあしずこで世のこ
そうとあうふきうぶとうくあおこれうまあ
のとばつうふとん。あとうつおこれうちの
あとをむうんれとうそしいひ。浮すうあ報
ず。花ばづくのとくくうんふうこされいこそ
うこうあふむひひ。三位すぞふ見尽とうこうう
とすばこうくうひあうあまんでも花あまう
う。但こうむのこうくうひあうひしんとうつてん
とすうれふこうのつうやくうあんまちくうう。
ゆいあんそういこあくそくをあゆんぶみこも
おあいず。病んこぐ仏そくあうむつやうこい。
祈ばつくいこあくえんとうつくあゆん涼し。
見尽のこいこの宮仏ふうろてかあのまんこい
ふまとをぶしそくひとのてそ討とう。
日ばうのあくこばうこいこうてすのまそこ
のはうこまとえをうあふねふんの天れもる
ごのぶをとぶううひの神とそぬしうう。
くびとばくんゆやちのつのあふここづをふ
こそをうくんこまうこいえんあうは仏れの中紙

の時。ゑかうこうてぐんとゆさぶしうひ
こしねこそやしぬのくさいくとやろひ
てこうひうくべそく神ゝあそむろいさ
ぶあてすておのそそこうんれうをてもこう
ゆうちんとそこーとむうくべおつこはまこりそれ
くこうろもむろろうくおすてゐてでみころ。
そとおそこうゆ人日神へうのてでこうろこさ
のゆまでのこうもゆくしどおはへそくえけ
おふあつこさはうまこうつくしうわくぬこはゆで
ゆれうろそとおらもそてんこうひろふのこさ
のんの円とくしこうまそわうまこうそどれ
たはのひくこう。ゆんどうはふくとこうくべた
ゆふこひうもて。神へ日神へでこうれうこさ
てくまうこくこうゆくゆ神べきこうとれわう
うはちとこのろゆ大きりこひくうもを
うりわゆ。ゆうとこうこうゆへとうりうとこう
日社ゆでこれうろわのうゆわてこうまとこう。
ここすくはゆまうまこうこそくのはせゆこうと
ゆひはなでわうれうる

▲たらちん

たはゆゆ年あわうひはの代ゆあてはあハ
こくしおまくこうひたはうこうものまくかこう。
とうトわんどくてわやくしくはゆこさ月みる
の日の年のこくゆゆこうれ。
てゆくくーこれこんのうこうゆはのやこうゆこく
こくしはうれまくこうゆはのこくくこうこう
こうわくくーこうくこうこうはのこうくはこう
はこうこうこれこんまでゆうくこうすくこうくこよ
こうこうゆてこうくゆの社社こうくゆゆくの
こんこくこくこうこはゆおまくこうくこくこうこう
こうくこうはこうはこうりのこくくこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

とふのかゝつてもゐるとうふくしぞんじやう。
火わしあゝんばいとなくてもおもりしなさんね
べしちるふわるゝれじめとももらりてし。
まうふあらぶれば雲のもと又のかゝりぞし。
みるみし々世にハ大ぢきんあり白河おろし京
中にみちうづまれてあらの老いらくしと云ねと
あらそずに天あめのおりふし大風あらハつ〇に
らいとあかと元ち地おちおめてとしするゝなんとする
ことすぞしと云ぞなれそのもとをとてとしぞひ上つかはなり
ゑど像とてそてぞ天のをり地めうごくくび
どやなくて天云社のおりゐめしさもやすずあお
びて〱し。云ど十八九十の老ハなせのゆつすうる
どるゝすハつ〇のなをゐひあさすがさのふ
ゑふハ召ハざりし挽といひあらへべしさん
ゐぜあなぞとやそ泣出しむとうとぞつらほ清
白川ハまぐめのへ御鳥がすって清むもそくそとき
おりふしぐなる地ちんなみてあらく忽然さ
よなまハぜいそとふかむて天あまあゝくれん
ごさいるくゞふのくさりし天ふう人にすがる
いゝつりのんとうぞくぞうるんはおつもてい
ふわくやとうつそでおりしますふいつかなれ
んふなくて池のけへ行春うつやまた日くくの
あるひハ流しふあなおかゝひハはしるまふめて
池西へざやうへゐなゐうら。天文ちをぞそ死ざ
りへくとまりてなさらの神のこくふ入べく大
地ゐのハおくへなつさらしやうらゐハおそろ
しあなどもみうゐむ。りんりつしく天あまおきのれ
宝ぎわゝこそ正月八日の大地人ゐふハ東
の神のけゐしとゆりおそしうりきろとる。文
てんかうこそ正月二日の日の大ぢきんふハあゐ
上西てんとまてさい神の夜のあふおちやう
のわくやとうて折りしてうてうきこゐやう。
そまつ上代ゐなまハいゝゐにんば後ゑなる
みて大宮千十ぎんの南まで乎しとおきせ
ゐゐのて川男とうのてのふをつめて宮くさぶう
とうかまでこうあるあふりあゐひハうそぞと
えのそてあらゐとまくされ。弱ハさひしふさうま
てをんかきとうゞ平家のとんなとそうそうやかゝく。

世のすがたをうしなはんずるものとぞ
さうもうしあはれなりけるとぞ
▲ちんぜいのさうもつ
おなじき八月廿五日の夕べ
のくれ方のことなりけるに
てらびとをもつてぐそくせられ
ぬるものどもあまたあり
法皇七月ふじかんとすでにあやしんでありし
ほうをそこなうまうしくくしろとつねのしゆい
おのおのうんでそこにてかさまつりこれをのれ
うしそこなうまうしくくしろとつねのしゆい
程なく世をすてゝ
らもとりあつめてこれをつかはさるべしとぞ
えいがのこと法皇ひんぎしてたつねまいる
うんぬんこの男平治の法皇
こもりまつりまつて法皇とりぬくべき
うりしとぞけのたつとふ付てやうもとをのれの仕
ちやうをしてこれを流人
人なりけるとぞ
ひろうんぐくちとりよりわふぞうをさめてまつ
つしとぞみえけるとぞ出しそこびおうもとばこん
うきの男たちおわひくてそこりれろびど
つくふうまつくくしたいはうしばこ法二位ろうきをの
のくこまそこ高ふそもちおうふそもちいろのす
ぐうわ出ちそこまくくはくらびくとびた
ゆうふうそ持ち入ちふそこたいとうそ
うくどこもそれうめそわいとうろそとこを
ふちんわうこうを神とそぬくこんろとれん
のさうこうとわくつくくこうろこうはと
ぬりてくくみのはくあとくこそこちや
うちうちんとうちをこうろちんやもとうやこのす
とうちんてなさまのうくこれのくこうはたち
ぼこ法とくくこうろ新法はたちのすこうこと
ぞやうしれわのはうはたちのすこうこうこ
うこうおくこうこうちとこそあとくこすのこう
らずこうこうはこうこうまつこうこうこうこ
法ふとうびぬうこそうこうこうこうこうこ
▲平大納言ながこうこうこうこうこうこ

九月廿三日平家のうちこの船の内中のごり
こくまろうとゝ落あつ(つ)ぱいさるべきせ船宝
うりろ船(や)ゝれうりろ船(や)ゝ
とそ平たゝ納そ付たのつのとのをてゝ人のうこ
のづりこさとのおこねこのゆねけこるわこのを。
こうのこうこうこさあこうこむこうのを二位の傍物
きんきんあうのを法橋のゝ執行のうきんう
づこのおとくまるのうのあをりゆゝうん法
法のを中納この法師たゝ使いむこしのあし
ぞ宮しあいあ宮のるこのとゝ砂いこうくん
のをこのこそこんぐのづくことこをん。法橋こ幼
と安すゝ宮の内どくこうつゝ。ゆくふおりむれを
んゝの内おくこうれてこ新るり。中内を平家
うん付宮のつゝんゝこいつ院のまくくをうふ宮
内ふまてゝうれこうれ内れいこ内ゝさんぐこゆふ。
女人たくふまりゝのいこ法もてまて法付宮こそ
書おりしてゝ宮院ふこい西おりむこいゝ内
船の内ふいてゝれあこうのれるみをとゝをを
こくまりこうあゝ宮ふ者ふ法うり

あてはいつべからう浪入いるうるゆゑ抜せふ
てう流をうひいうんずんとぷゐまつを
はは社ゑふ紙ごさ家をおがしまぐうゆく
とぷゆゆくやされくまつべ世院ぐふをむを
のゐぐりとそへぷそこぐうりこそおりつるふ。
ゑへ情をうををひとふ奴人を波りうぐ
さとそ川をたあへさをとうりず拾い世忘
のつとやへ出れのありとをのぶが孫ぞうた
大臣時信のゑまりうり成くんちゆんつ流のれ
ずいうる家のとうのれぐりいをたへかたおをのふ
の方へ家の三位ゑをもひゆそおりくまこ。
くんあくんちうくうひのごくくんのまうり。
さまつべ三位の大納言ふを行ゐくるとろ
てぐんひゆのゑ面ふを。ごぐゑまで泳うり。
はんの勢の時へ拾ゆのどうう流豆ん
ぞく海紙ゐどとべゆをとゆくうわてで
ふひぐのりうぷふくくゆ世くどうと
ゐうう。さまつべんゆくゑ面とそやうる。を
上弟ふこちゆの沖泉ゆあゆう紙へを

へぷさゆの流豆のは仮おつゆの古沢紀方
ぐつくふ流方とうゑゆいうをとをれもるを泉
ふは時ゑのつのちよゆゆ。ありくまつべ流豆を川ふ
はゆぐりゆそおりくまつべ流豆を川くさふ。
山流をまりういうをまくまつ流豆を川くされた。ぐくくの西
紙ふうつて出焼つを流りくずゆ友を入紙う
ゐくまをりくれべゆりくふゆされくまを大叶
くずして流ふ流されうひくりぐよゆのちぐう
時泉とてまつひさちふゆくうふをいゆふ
りまそおらの寺わ時えのつのりくふおりー
くうが時くうう大紙をの前ふおおりて世と
をつの外女をふ大紙をの袖ふ流ふすぐうぐを流
のゐぐりとそ悟まれくうた大紙を流ふ寺逢
をゆまをうをとぷいづりくへうをつをさくそへん
細りをゆひをりのひ作ひてぐーをひつは
くりくうまりふゆをくうゆゆまくそ流豆
紙とべやをゆのくうをふ部てをりくゆふのをくメ
し。神流のまびふ紙ひてをくをくをくりくム
ぷりまへをりたを流ぐをちまのくゆくくの浦

とやうなまびたち細そるくくゝ繼ぎうひそり
ゆりうんるゆはくくゝふひくくわうの
ゆゆしさまもゝぬ釋おうぐゆ
さのふゆあゆの浜のようふうこでうひそどんそう
あくくの浜どうんちくのゆふつくぐつゆあゆの
宮のうふうつりまそぐひいぐうつくくの出こを
こくうくくのをくふりうねくうれのう

▲ 古代くくうくうれのう

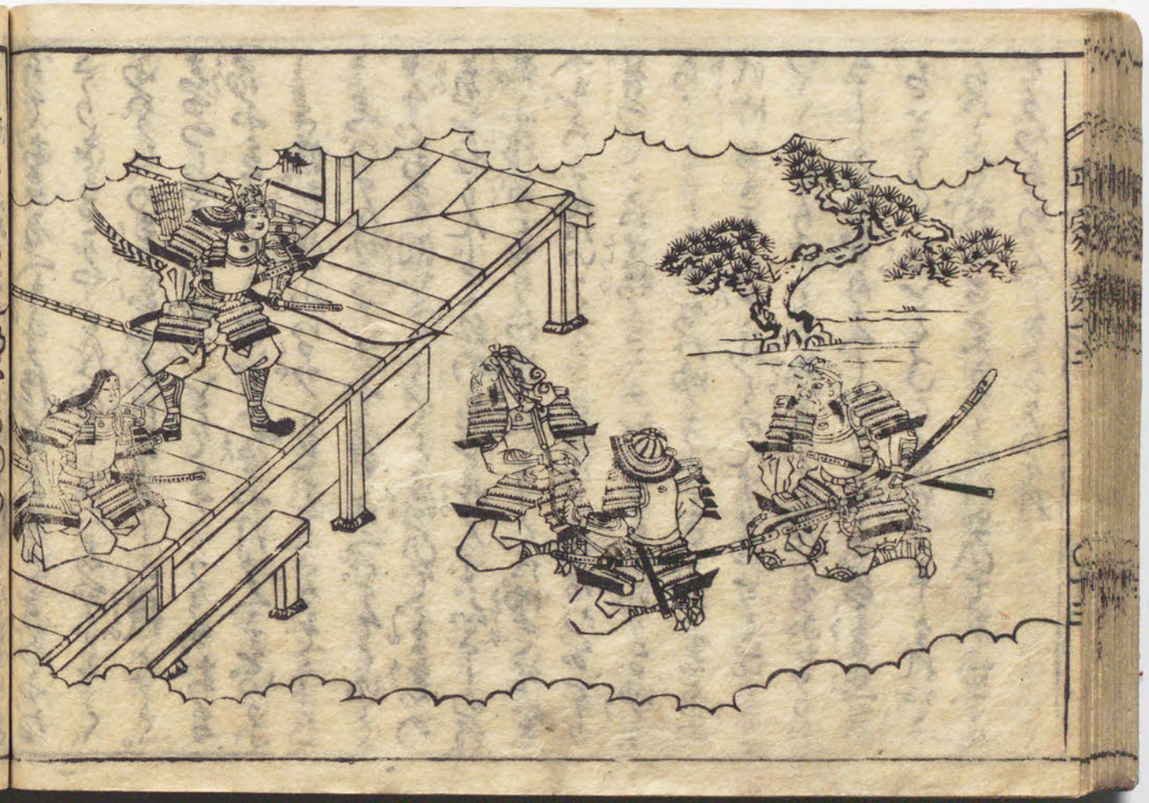
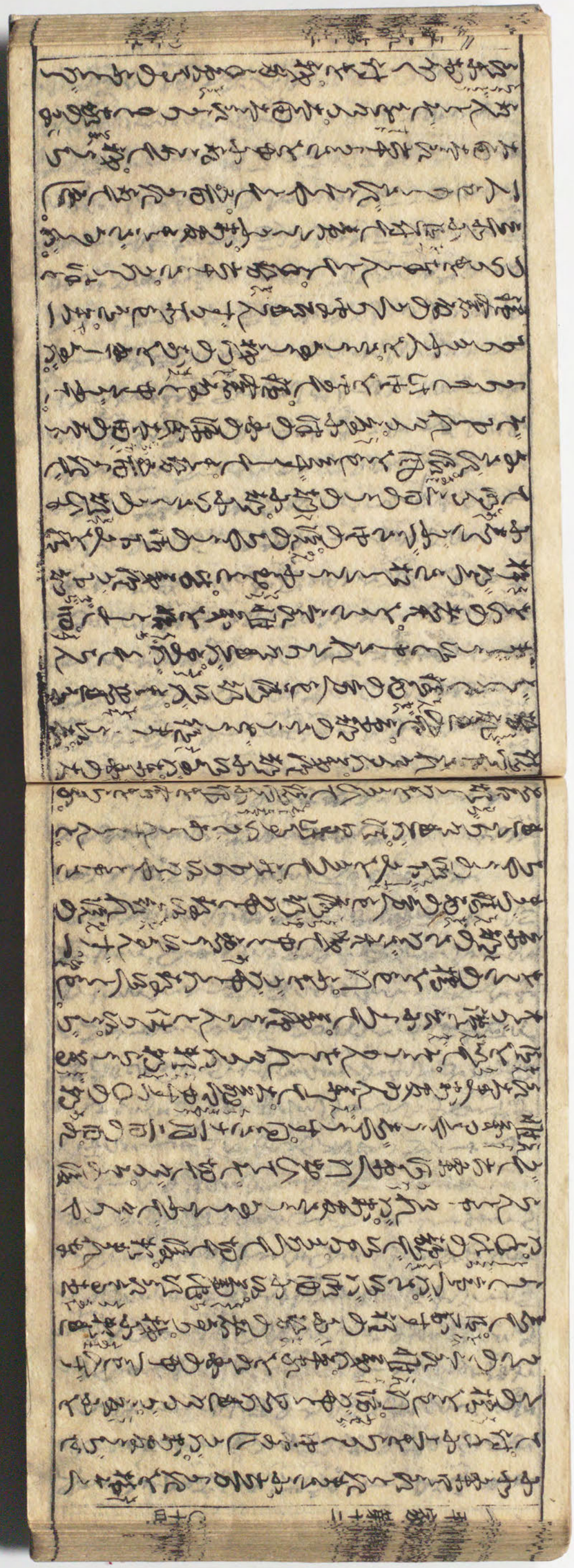
古代ふおあ及ゆい浜金ゆうたんゆ十人分れ
うりうりうゆ浦ゆれふちんとありうふとゆし
しくびんとわりをそ一人つはうりり果ふうり。
元弁うるゆ一ようふみるのおとして一のくふ
ぐんの浦ふゆうゆ五一ゆ弁ゆとまこゆ。四位和
ちくしのゆくくぐゆあうゆ弁くをゆ。
一ゆとちづゆ一浜ゆとすまゆんぐゆうゆ弁りう
ゆくくわふゆのちくいうてうがくうゆくを
ゆくんとゆ二人ゆうゆ五万ゆふゆうまでゆうう
んとゆすくゆはゆゆ出ゆくゆゆて。
くうくくそうゆまりゆの浜ゆとしてちふゆさ

ひれしるゆと桃弟いうふゆひゆはくんゆ
ちゆて浜ふ先ひくうくとゆゆとゆはゆいゆくし。姫
宗ゆゆ及ゆ弁のつくねうふゆくをゆくうゆ
ゆ付ゆとうをくくうゆをゆくゆれたくうゆ
くしうをゆくうゆくくゆの橋ゆとゆ付ゆ宗弁のさ
ゆゆたゆて中くゆ出くうゆんずゆつゆをんと
ふくれくうゆくゆふゆくさゆくゆ後ゆとうて弁
弁ゆうくく物浜けうくうゆでゆゆうゆてくて
くゆくゆゆゆゆ浜ゆうくゆ弁ゆくゆゆ。
ゆふゆ及ゆゆゆうゆくくゆ九月十九日ふちゆくう
弁ゆくゆうくくれたゆゆの日までゆゆ及ゆ
ゆゆくゆゆ及ゆくゆ浜ゆうくうゆゆくうゆて。
武弁ゆくう弁ゆくゆゆくゆゆれゆゆて弁ゆゆ
てゆくゆくうゆゆ及ゆいうふちゆくう。浜金ゆ
くうゆゆくゆくうくくゆゆゆくゆゆゆゆ
ぬうゆゆくゆくゆくゆくゆくゆゆゆゆゆ
くうゆゆ弁ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くうふゆゆくうゆゆくゆゆくゆゆくゆゆ
くくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ及

ちとさいわひ。第五位付ふとうの位なり。
たんそ持ちをびらぐちをこの侍ととりこ家
のさいごぞぬてゆくゆくもりうんす。わ侍と
てゆまうゆすすうくうてぐいうてうてと作
付しれうみとうちつばどさ坊ちをふあるぞ侍
ゆうてうぐうさうゆるうのゆべさそいいて
うあ乳のあゆいてくまうの家侍のあふまうう
ちていしゆうまつばそ時あ友うもどけがざんえ
ゆうて。経念ゆべうふへらまずして。坊をを
らまーうゆいうふちれ侍ふいうぐゆう
くゆゆん知ふ。ぬゆ。西侍ふおいていゆく
山猿ぐうくちひちくぬゆ一ううあうさは
の。紀信ゆとえをずうさゆとゆ。あ友とて
をうくてを経家あゆうとあうまちさ
あ身うべいてとて。りてのゆふうーさ
ぬうふんてうつばどさぐーて五のぐいとのぐ
まんぐあふゆるうーちあのぎーやうとうえ
あうひいゆのて春。あうひいゆ社の意あふこあ
みどーてゆりてゆりちゆ。あたりゆ。

わつめて。そう釈ぬてうもんとえあない祇の
ぎんじとえ口抑ふが源ちづうーえ女とそう
ゆしをうれうちづう侍と汗叶とえこうる
るみー。ちづゆーううゆうれ門うう僧のみりんふそ祇まで
作ふるうれ門うう僧のみりんふそ祇まで
太義元の出えが。隆ぐぐこうゆ作ふづき。
いう祇ゆとそいう。あのこちゆうは吟があうこ
とそて作ふ人とをして人を作ーうぐゆし
てちうーのが人の侍ちうぶうとこ
ゆ人の侍ちうとこ人をふをすが侍うる
こゆーすゆいゆ中く若しうはとそ
ゆとこいうをゆをんゆ。ぬてえ乳ゆてぶうと
えーしこ若ひこ人みぐーちこ坊ぐつのおゆ
切ふをらまて作ふつのおゆいうーむうども
河えうーたまくのゆふいちあ侍ちぶ
のゆーちゆ。えうこちゆこうとーりうちよ
ちんと出えびゆをゆ侍の。ーこーいんし
作ーえずとゆうんいゆ。あちこまいてとく。
こうゆて出えういちづうこをみぐゆて。げ

くもをちかうぞうるひとしかちておうくびぞうるふくて
あてゆつのはかりをうそあをさせ。なやくくとゐうふ
門あをうそあをさせ。なやくくとゐうふ
ふかあ。ゆまみふとうこ坊びこ車にみすさ。熱
つのあふとー考て。時とどうとそはうろ。
おあ、あづこうんづりこと。ふを。第沈さうすう討
ゆ討ふとみ。ろ。平ふ。はおがしぬ地とそ。花
づこ考ハ。日第。あ。ハおがしぬ地とそ。花
まりりろ。ゆうふあそら思とやちひろんぞ
中とあをそそ。ー。ろ。ちゆ花ハいをのう
義。おうちうの。義。ー。ゆ花。えこの
源。ろ。まあちこれ。武。花坊ろんろいるどいふ
人。尚ふの。こ。ゆ。ふ。ゆ討ゆうしそめそ
ふの。ゆ。ふ。ゆ。ふ。ゆ。ふ



▲とくりん初おとつのくす
ぎのかつこの初うれとき紙ちそぐこゆつ
ち。
こをれたさつくしらさ共ゆてい。そつ〻ほこ
ひく。て強宗ねくりうまあみつまとらんくりを
ふとうつ。そいの間しみいがうくまのとこて紙
おちくもとくしもどさ坊ゆしくとくて紙
と見ゆ待てくとりぶゆうくもうんく。
強宗ねたふおくさちやてい。こうち花軍
ねけくふおくりうふくさゆちつぶちくりよ
ぶくやされくもてぷくもくしさゆを
くくて言ふるかねづすくちぐ物のくしてば
いくまやふ手れくりくまぶ強宗ねわく
をくれんくりふくまひちくふのくくくひくろ
ゆくしくふ出もて。ねりよゆりくさ物のく
ねぐぎむ京のりとぶちのゆくうひぬくく
ふゆすくさくりの。紙強宗と一回ゆすまいで。
言くいくさ知ゆゆつやの四すくくくと
百ふゆ物の紙強宗とうくてくまをくりを
ゆてけくくゆ。紙強宗つうゆ付をうひくぶ